

## 2020年度 校内研究（研修）

### 1 研究テーマ

#### 共に学び合い、自己を表現できる子どもの育成 ～学習評価の視点から考える発問の工夫～

### 2 テーマ設定の理由

グローバル化の進展、科学技術の発展や社会・経済の変化に伴って、多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら感じ、考え他者と対話し協働しながらよりよい方向を目指す資質・能力を備えることが求められている。また、平成30年度から実施されている「小学校学習指導要領 特別の教科道徳編」では、改訂の趣旨として、社会問題となっているいじめ問題への対応の充実等が掲げられており、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題として捉え、向き合う「考える道徳」「議論する道徳」への転換が求められている。

本校の一昨年度の重点目標を視点に子どもたちを見てみると、9割以上の職員及び保護者が共に「自他の生命を尊重し、思いやりの心をもって行動している」と評価している。それに反して、子どもたち自身の評価は低く、56.7%の児童のみ肯定的な評価をしていた。この結果から、一見穏やかな関係に見える子ども同士の中に、表現できていない閉塞的な関係が存在していることが予想される。また「思いやり」のある行動がなされていてもそこに価値を見出せず、自覚化されていないことを示唆するものであると考えられる。

この実態から昨年度は、道徳指導内容項目 B「主として人との関わりに関すること」D「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を中心に取り組むとともに、学級での支持的風土を大切にしながら、教材研究の見直し、ねらいに迫る道徳科の授業展開ができるよう全職員で研究を重ねた。その結果、昨年度の学校評価における「自他の生命を尊重し、思いやりの心をもって行動している」という項目では、一昨年に引き続き職員及び保護者は9割以上の評価を示し、児童においても92.9%の評価を示す成果を生み出した。そこで、今年度も昨年度に引き続き研究主題を「共に学び合い、自己を表現する児童の育成」と設定した。自己を表現する力を身に付けるには、他者との関わりの中で自己肯定感を育てていくことが大切である。そのことから、共に学び合う中で、互いに認め合い、よいものをよいと自己を表現していく子どもを育てていきたい。そして、多様な価値観が存在する社会の中で未来を切り開き、強くたくましく生きていくためにも、よりよい生活づくりに向かう行動力を育てていきたい。

一年次には、共に学び合う必然性を生み出す「考えたくなる導入」を行い、自らの成長を感じ自己肯定感につながるように「振り返りの時間を保障する」ことに取り組んだ。その成果として、導入から振り返りの時間までの道徳科の授業展開の一連の流れを教師児童共に掴むことができた。しかしながら、学び合う必然性を生み出すものの学び合いの充実とまではいかず、問い返しや児童の考えを揺さぶり、更に考えを深めていけるような発問

の工夫が必要との課題が挙がった。

以上のことから、二年次の取り組みを、児童が自らの成長を感じつつ自己肯定感を育むという「学習評価の視点から考える発問の工夫」、さらにその工夫から「児童同士の考えを繋ぐ力を育む学び合いの充実」を図りたいと考える。

### 3 研究仮説（二年次）

道徳科において、児童が「学習評価の視点から考える発問」を工夫することで、児童が自他の考えの相違を主体的に考え、繋ごうとする力が生まれると考えられる。そうすることにより、「共に学び合い、自己を表現できる子どもの育成」へとつながるであろうと考えた。

### 4 研究方針

- (1) 研究テーマや研究方針などについて全職員が共通理解し、協働で研究を進める。
- (2) 研究は知育部会、全体研、学年研において研究を推進する。
- (3) 理論研究の深化・充実を図り、授業研究に役立てる。
- (4) 全体の計画に応じて指導主事や講師を招聘した授業研究会をする。
- (5) 1人1授業の実践と代表授業及び全員授業での全体授業研究会を持ち、研究を深める。
- (6) 授業を通じた実践的な研究を進め、授業改善の成果が児童の生きる力の育成へ還元できるようにする。
- (7) 学力向上推進と連動した取り組みを行う。

### 5 研究内容

〈一年次の重点〉

- (1) 「共に学び合う」必然性が生まれるように児童が「考えたくなる導入」を工夫する。
- (2) ペア・グループ・全体等の学び合いを通して、思考・判断・表現力を高める。
- (3) 自己の生き方を見つめ、自己の生き方について考え、自己を表現する力を育てるために振り返りを工夫する。

〈二年次の重点〉

- |                                   |             |                       |
|-----------------------------------|-------------|-----------------------|
| (1) 学習評価の工夫                       | ┌<br>├<br>└ | ①授業や指導計画改善へと繋げる。      |
|                                   |             | ②児童が自らの成長を感じ自己肯定感を育む。 |
|                                   |             | ③評価の視点を元にした発問の工夫      |
| (2) 学び合いを充実させるために、児童相互の考えを繋ぐ力を育む。 |             |                       |

### 6 研究方法

- (1) 理論研究（資料・講話など）
- (2) 授業研究・実践（全体授業研究会、全員授業、1人1授業）

(3) 校外研修報告

## 7 研究主題に対する基本的な考え

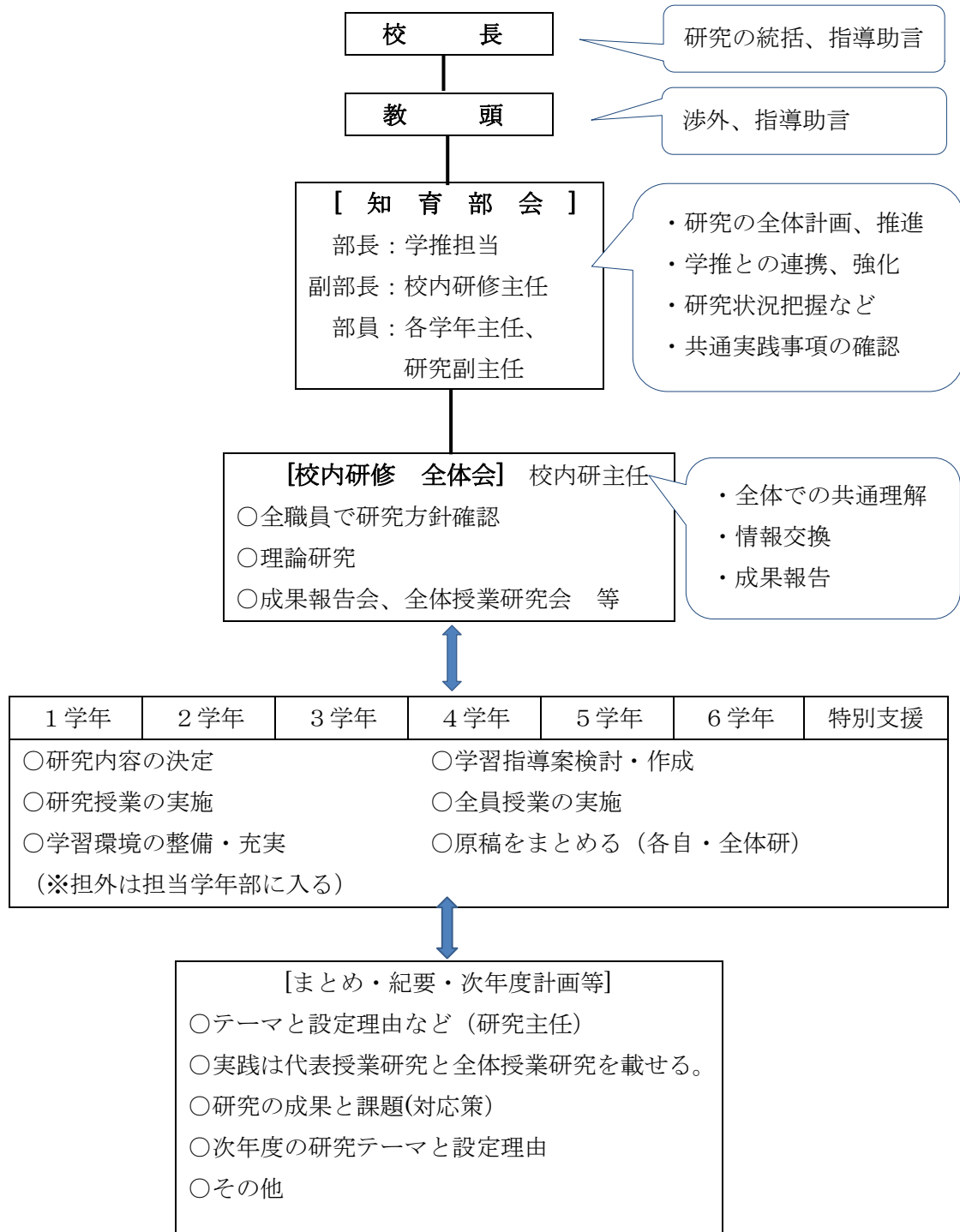
(1) 「共に学び合う」とは

学習課題に対して、一人一人が自分の考えをしっかりとった上で、発信者は相手の考えを尊重しながら、言葉を通してその考えをわかりやすく表現する。自分が発信したことに対し、受け手からその良さを認めてもらったり、自分の気づかない点を引き出してもらったりして、自分の良さを友達から学ぶ。受け手は自分の考えとの共通点や相違点を考えながら聞く。発信者の良さを見つけたり、質問や補足をしたりして、発信者の良さを引き出すことで自分を高める。そして、互いの考えを伝え合うことを通して疑問をもったり共感したりすること、新しいものの見方や考え方に気づき、自分の考えを修正したりより確かなものにしたりする。このような学習を通して発信者・受け手が共に高め合っていく姿を「共に学び合う子ども」と捉えたい。

(2) 自己を表現できるとは

主体的に考え、自分の考えを分かりやすく「書くこと」「話すこと」ができることであるが、道徳教育では、自己を見つめ、自己の生き方について考え、意志表示をすること全般を表す。

## 8 研修組織の概要



## 9 研究(研修)計画

回	月 日	曜日	内 容	備 考
1	4月 3日	金	・研究テーマ、テーマ設定の理由、研究方針、研究内容、 研究組織、年間研修計画等の共通理解 ・道徳科の授業開きの提案 ・授業の進め方	全体研修
2	4月 27日	月	・心肺蘇生 AED 講習会	全体研修
3	5月 13日	水	・本年度の校内研究における児童に実態把握 ・理論研修	全体研修
4	5月 18日	月	・学年教材研究	学年研修
5	6月 1日	月	・第一回校内授業研究会 (代表授業)	全体研修
6	7月 1日	水	・小中合同研修	全体研修
7	7月 8日	水	・学年教材研究	学年研修
8	7月 13日	月	・第二回校内授業研究会 (代表授業)	全体研修
9	7月 30日	木	【夏季研修】・エピペン講習会 ・道徳の授業づくり	全体研修
10	7月 31日	金	【夏季研修】・第二回特別支援全体研修 ・授業づくり研修 (国語 or 算数)	全体研修 学年研究 全体研修
11	8月 25日	火	・伝達講習	全体研修
12	8月 31日	月	・学年教材研究 (模擬授業等)	全体研修
13	9月 8日	火	・授業参観 全学級道徳公開授業	学年研修
14	9月 28日	月	・道徳の授業づくり	全体研修
15	10月 12日	月	・全国学力学習状況調査結果分析及び今後の対応策	学年研修
16	11月 2日	月	・第三回校内授業研究会	全体研修
17	11月 30日	月	・年間指導計画の作成について ・2020 年度の研究のまとめ	全体研修
18	12月 25日	金	・2020 年度の成果と課題 (まとめ) 報告	学年研修
19	2月 1日	月	・2020 年度のまとめと次年度の方向性について	全体研修
20	3月 1日	月	・特別支援全体研修	全体研修

### 【授業研究会の予定】

内 容	授業者	日程
第一回授業研究会 (代表)	学年 ( 先生)	6月 1日 (月)
第二回授業研究会 (代表)	学年 ( 先生)	7月 13日 (月)
道徳授業公開 (全員)	全学級担任	9月 8日 (火)
第三回授業研究会 (代表)	学年 ( 先生)	11月 2日 (月)